

気候変動モデルを用いたカキ「富有」の将来的な栽培適地の可視化	
【要約】 気温上昇により、カキ「富有」の着色への影響が認められるため、現在と同等の着色度を担保できる地域を栽培適地として、将来気温予測モデルを用いたマップ化を行った。2026～2050 年以降、栽培適地は濃尾平野から外れ、県内中山間地が適地となる。	
農業技術センター 果樹・農産物利用部	【連絡先】 058-239-3133

【背景・ねらい】

近年の気候変動により、本県の主力品種であるカキ「富有」は、着色遅延により収穫期が遅れる年が頻発している。カキ「富有」の着色は、秋季の気温との間に高い負の相関が認められることから、今後の気温上昇により着色への影響はより顕著となることが予想される。

そこで、将来の気候予測を行う全球気候モデルを用いて、カキ「富有」の将来的な栽培適地を岐阜県地図上にマッピングし可視化を行う。

【成果の内容・特徴】

- 1 緑色で示した現在のカキ園は、1981 年～2005 年の気温データを用いた栽培適地と一致しており、栽培適地での産地形成が進んだことが窺える（図 1）。
- 2 2026～2050 年の栽培適地は、濃尾平野平坦部は不適地となり、美濃地方中山間地に移動する（図 2）。この要因は、9 月の平均気温の上昇に伴うものである。
- 3 2056～2080 年の栽培適地は、更に北上し、東濃地方・郡上、下呂地域などが適地となるが、高山市までは北上しない（図 3）。この要因も 9 月の平均気温の上昇に伴うものである。

【成果の活用・留意点】

- 1 カキ「富有」の栽培適地は、渋残りをすることなく、現在の収穫基準であるカラーチャート値 5.0 に到達するか否かについてのマッピングを行ったものである。気象条件としては、①年平均気温 15～16℃、②9 月の平均気温 21～23℃、③10 月の平均気温 16℃以上、地理条件として傾斜角度 15 度未満として実施した。
- 2 マッピングは、複数の気候モデルを用いて実施した。今回示した図は、MIROC5（東京大学/国立環境研究所/海洋研究開発機構）気候モデル、排出シナリオとして RCP8.5 を用いたものである。なお、RCP8.5 とは 4℃上昇シナリオと呼ばれ、現時点を超える政策的な緩和策を取らない場合を想定した地表面の温度上昇と北極付近の海氷面積の変化を予測したものである。
- 3 栽培適地は、栽培技術による着色促進技術等は考慮しておらず、今後の技術開発ならびに現地導入によって栽培適地は変化する可能性がある。

【具体的データ】

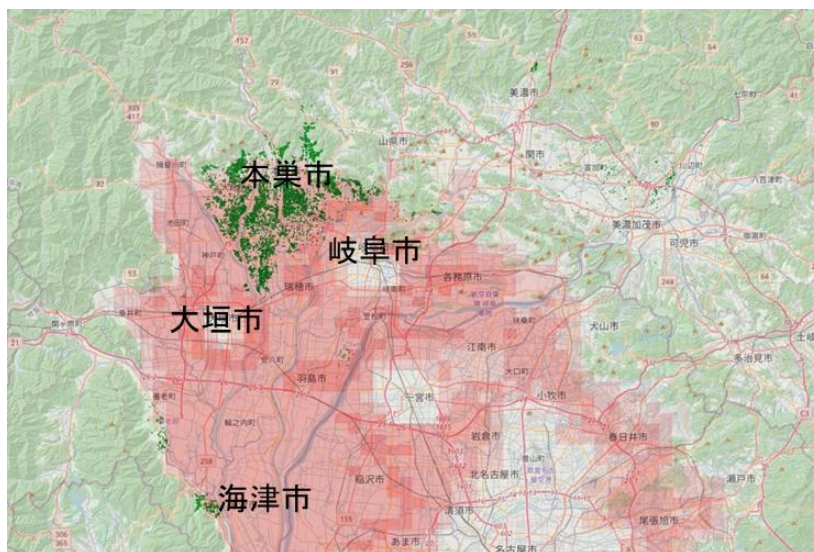


図1 1981～2005年の観測値を用いたカキ「富有」の栽培適地
(赤：栽培適地、緑：現在のカキ栽培地)

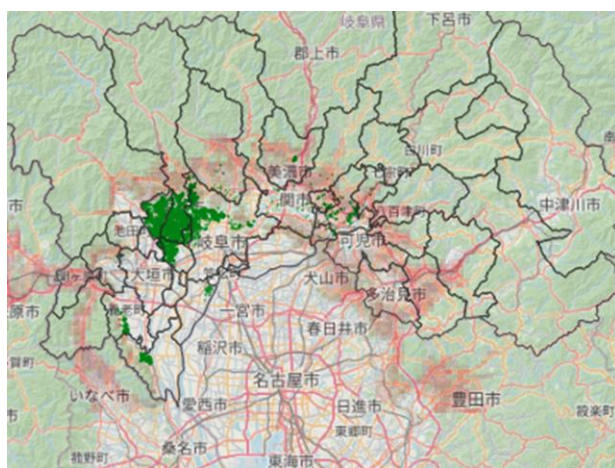


図2 2026～2050年のカキ「富有」の
栽培適地

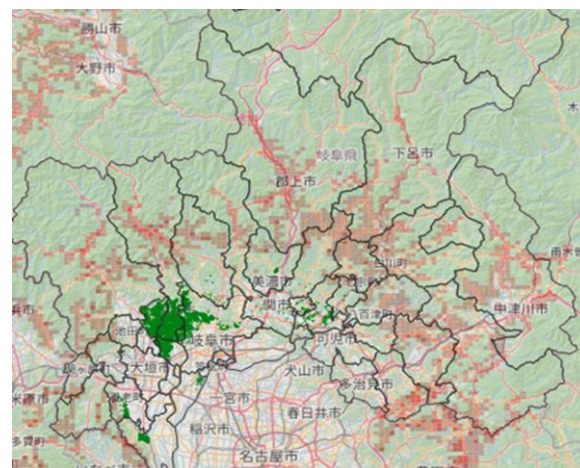


図3 2056～2080年のカキ「富有」の
栽培適地

研究課題名：

○岐阜県気候変動適応センター共同研究事業「温暖化に伴うカキの影響評価と転換品目を含めた栽培適地マップの作成」(令和2年度)

研究担当者：山田邦夫(岐阜大)・原田守啓(岐阜大)、新川 猛

○気温上昇に対応した岐阜県果樹の産地移動・新品目導入のための基盤技術の開発(令和4～6年度)

研究担当者：長谷川 巧・神谷 仁・新川 猛